

2023年4月9日 LINEメッセージ 日本キリスト兄弟団 新下関教会

<http://olive.lovepop.jp/LINEsound/2023/20230409.mp3>

廣川和行牧師 マルコの福音書 16章 1節～8節

「ここにはおられません」 イースター

10分53秒

- 16:1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリアとヤコブの母マリアとサロメは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。
- 16:2 そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったころ、墓に行った。
- 16:3 彼女たちは、「だれが墓の入り口から石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。
- 16:4 ところが、目を上げると、その石が転がしてあるのが見えた。石は非常に大きかった。
- 16:5 墓の中に入ると、真っ白な衣をまとった青年が、右側に座っているのが見えたので、彼女たちは非常に驚いた。
- 16:6 青年は言った。「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。
- 16:7 さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます』と。」
- 16:8 彼女たちは墓を出て、そこから逃げ去った。震え上がり、気も動転していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。〔彼女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間たちに短く伝えた。その後、イエスご自身が彼らを通して、きよく朽ちることのない永遠の救いの宣言を、日の昇るところから日の沈むところまで送られた。アーメン。〕

おはようございます。

今日はイエス様の復活を記念して礼拝を捧げる、イースターの朝です。死者の中から復活され、今も生きて働かされている、主イエス様がおられることを喜び、心から感謝いたします。

今日のマルコによる福音書の16章1節から8節では、最初のイースターの朝の出来事が記されています。イエス様が十字架につけられたのは金曜日の朝9時頃でした。そして息を引き取られたのが、午後3時ごろと聖書に書かれています。イエス様の遺体は亡くなられてからすぐに十字架から降ろされました。有力な議員であり、神の国を待ち望んでいた、アリマタヤ出身のヨセフが、勇気を出して、ローマ総督ピラトに、イエス様の遺体の引き取りを申し出て、ヨセフの墓に納めました。ユダヤの一日は、日没後に始まり、日没で終わります。金曜日の日没とともに、次の土曜日、安息日になります。聖書では、安息日は仕事をしないで、神を礼拝するように勧められています。土曜日の日没で安息日は終わり、週の初めである日曜日となります。イエス様が十字架で亡くなった金曜日のうちに、マグダラ出身のマリアとヤコブの母マリアとサロメの3人の女性は、墓に収められたイエス様の遺体に葬りの油を塗りに行こうと、香料を買いました。彼女たちは、翌朝日が昇った頃に墓に行きました。当時のユダヤの墓は横穴式で、入り口に大きな石が置いてありました。女性たちは誰がイエス様の墓の入り口の石を転がしてくれるだろうかと、大きく重たい石を動かす助け手がないことを心配しながら出かけました。ところが、墓のところに行くと、大きな石はすでに転がしてあり、彼女たちは墓の中に入ることができました。

墓の中では、右側に真っ白い服を着た青年が座っているので、それを見て彼女たちはびっくりしてしまいました。

青年は彼女たちに「驚くことはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められていた場所です。さあ行って、弟子たちとペテロに伝えなさい。『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』』と言ったのです。

この青年はマタイの福音書では主の御使いと書かれており、神様が遣わされた天使です。

彼女たちは過去において親しみ愛したイエス様を探し求めていたので、死んだイエス様が復活してここにはいないと言われ、ただ恐ろしさを覚えるだけでした。

彼女たちは気が動転して、墓から逃げ帰り、誰にも墓の中で見たことや聞いたことを話しませんでした。

この女性たちは、突然の天使の登場と言葉に驚き、気が動転してしまいましたが、後に、彼女たちと他の弟子たちは、イエス様は復活され、生きておられることをはっきりと信じるようになりました。

どうして信じるようになったかは、天使である青年が語った言葉に鍵があります。

天使の言葉は2つのことを語っています。

一つは、墓の中にイエス様の遺体を見つけることができなかつたのは、イエス様が復活されたからであるという驚くべき知らせです。

もう一つは、死者の中から復活されて今生きておられるイエス様に、これから会うことができるという知らせです。

ゲッセマネの園でイエス様がユダヤ人指導者たちの手によって捉えられた時、ペテロや弟子たちはイエス様を見捨てて逃げてしまいました。その結果、弟子たちはバラバラになってしまっていたのです。

その彼らがガリラヤで生きておられるイエス様に会い、また再び、弟子として一つになるのです。

イエス様の復活から約2000年経っている今日も、神のひとり子イエス様は生きておられます。

私たちがイエス様に会いたいと祈り求めていくとき、必ず生きておられるイエス様にお会いできるのです。

主イエス様はご自分を信じる者に永遠の命を与えてくださいます。

そして私たちは生きておられるイエス様と共に歩み、神様に祝福された生涯を送ることができるようになります。

私たちの歩みを通して、イエス様は生きておられることを、まだイエス様を知らない方々に伝えていくことができるのです。



ずいぶん前に私がイスラエル聖地旅行に行った時のことです。

夕方テルアビブ空港に到着し、暗い中バスに乗ってエルサレムの街に向かいました。

次の日、かつてイエス様がおられたエルサレムの街を見て、イエス様がおられた街だと、とても興味深く、新鮮に感じました。

同時に、理由は分かりませんでした。何か物足りなさを感じていました。

そう感じた理由が間もなく分かりました。それはイエス様が納められていたという言い伝えの墓を見学していた時でした。

岩をくり抜いて作られた横穴式の墓の中は、畳2畳分くらいの広さがありました。

墓の中に入って見たのち、外に出ようと振り返った時に、

壁にイエスはよみがえられました。
ここにはおられませんという聖句が書いてあったのです。
私の心の中の物足りなさの理由は、
かつてイエス様が人間の肉体を持って歩いておられた
イスラエルの国に行けば、
より深くイエス様を知り、交わりを持つことができると
期待していたためでした。
しかし、墓の壁に書いてあった聖句によって、
イエス様は復活され生きておられるので、
わざわざイスラエルに行かなくても、
置かれているところで
イエス様と出会えるのだということがわかりました。
現在のエルサレムの街で
私たちと同じ体を持ったイエス様を見いだすことはできません。
けれども私たちが生活している場所で、
生きて私たちと共におられるイエス様を信仰によって知ることができ、
いつか主イエス様と相まみえることを約束されているのです。
そこに希望があるのです。
使徒パウロは第1コリント人の手紙15章19節で、
もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、
キリストに望みを抱いているのなら、
私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。
しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえら
れました。と述べています。
イエス様が復活されなければ私たちの信仰は、
人間の最大の課題である死という厳しい現実に対しては、
何の解決も与えることができないために、本当に虚しいものです。
しかし死者の中から復活し、死に打ち勝たれたイエス様が今も生きてお
られることによって、死を抱えて歩んでいる私たちに、

死から命に移される希望が与えられたのです。
そしてイエス様を信じる者は永遠の命を持つことができるのです。
今週も、よみがえり生きておられる主イエス様と共に、
与えられている今の時を歩いてまいりましょう。

お祈りをいたします。
天の父なる神様、
私たちが愛し慈しんでくださっているあなたの御名を褒め称えます。
先週一週間の守りを心から感謝いたします。
死者の中から復活し、今も生きて私たちと共に歩んでくださる
イエス様に信頼して、歩んでいきたいと願っています。
兄弟姉妹の今週の歩みを豊かに祝福してください。
また病を得ている方々を癒し、健やかにしてください。
試練の中で苦闘していらっしゃる方々を励まし、支えてください。
主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊との親しき交わりが、
会衆一人一人の上に、今も後もとこしえまでも力強くあらんことを。
アーメン。

